Japan Society of Obstetrics and Gynecology

P—322 子宮内感染と羊水中IL-6及びIL-8濃度の変化の検討

鹿児島市立病院周産期医療センター、宮崎医大*
高橋典子、山口昌俊*、松田義雄、茨　聡、
池ノ上克*、浅野　仁、丸山英樹、丸山有子、
鹿島理恵、遠藤誠之、蔵屋一枝

【目的】近年、子宮内感染による高サイトカイン血症が新生児の種々の病態に影響することが報告されてきている。今回、我々は子宮内感染と羊水中のIL-6とIL-8濃度との関連を検討したので報告する。【方法】対象症例は、平成4年6月から12月までの期間に分娩前72時間以内に経腹的に羊水を採取した19例で、出生は在胎31.5±3.2週（27～38週）、出生体重は1,792±765g（926～3,502g）であった。IL-6およびIL-8の計測はELISA法によって行った。子宮内感染の評価は、羊水培養による細菌検出もしくは出生後の胎盤及び臍帯の病理学的診断結果による絨毛膜羊膜炎（Blancの分類）を用いた。【成績】1) 羊水培養：細菌陽性例は6例、陰性例は10例であった。陽性例のIL-6は8924±13153 pg/ml、陰性例は590±643 pg/mlであり、有意に陽性例でIL-6は高値を示した。（$p<0.05$）IL-8も陽性例55377±48598pg/ml、陰性例4145±7185pg/mlと陽性例が高値を示した。（$p<0.01$）2) 絨毛膜羊膜炎：陽性例は10例（Blancの分類　1度：5例、2度：3例、3度：2例）、陰性例が7例であった。IL-6は陽性例5698±10668pg/ml、陰性例436±175pg/ml、で両群間に有意差は認められなかった。一方IL-8は、陰性例3887±8462pg/ml、陽性例35450±44480pg/mlと陽性例で有意に上昇していた。（$p<0.05$）またBlanc分類における重症度の影響は、IL-8において1度（5例、846±879 pg/ml）と2・3度（5例、10549±14016pg/ml)）で有意に重症度が高いほど値が高い結果が得られた。【結論】IL-8は羊水培養陽性例および絨毛膜羊膜炎例において、そうでない症例に比べ有意に上昇していたが、IL-6は羊水培養陽性例でのみ有意に上昇し、IL-6とIL-8では反応の差が認められた。

P—323 不妊患者に対するサイトメガロウイルス抗体価測定の意義

愛媛労災病院
南條和也、大塚恭一、宮内文久

【目的】サイトメガロウイルス(CMV)感染症に関連した免疫異常が不妊に影響を与えているとの報告がある。そこで、今回我々は不妊患者についてCMVの抗体価を測定し、その意義を検討した。【方法】1997年 1月から 1998年 8月に当科を受診した不妊患者のうち同意の得られた 130名を対象とした。抗 CMV-IgG抗体価と抗 CMV-IgM抗体価を ELISA法を用いて測定し、免疫性不妊との関係、不妊治療の成績ならびにクラミジア感染症との関係を検討した。【成績】抗 CMV-IgG抗体陽性例は103例で陽性率は 82.3%であった。抗 CMV-IgM抗体陽性例は 1例で陽性率 0.7%であった。免疫性不妊との関係は、抗 CMV-IgG抗体陽性例では103例中 23例、22.3%に、抗 CMV-IgG抗体、抗 CMV-IgM抗体ともに陰性例では 23例中 4例、17.4%に免疫性不妊が認められた。この期間、一般の不妊治療で抗 CMV-IgG抗体陽性例では 103例中 35例、34.0%が、抗CMV-IgG抗体、抗 CMV-IgM抗体ともに陰性例では 23例中 5例、21.7%が妊娠した。体外受精・胚移植法で抗 CMV-IgG抗体陽性例では 11例中 5例、45.5%が、抗 CMV-IgG抗体陰性例では 5例中 2例、40%が妊娠した。クラミジア感染症については、抗 CMV-IgG抗体陽性例では90例中 30例、33.3%に、一方、抗 CMV-IgG抗体、抗 CMV-IgM抗体ともに陰性例では 16例中 1例、6.2%にしか抗クラミジア抗体を認めなかった。【結論】今回の検討では、不妊患者の治療中CMVの初感染あるいは再活性化は稀であると考えられた。抗 CMV抗体の有無と臨床成績の関連は認められなかった。抗 CMV抗体の有無と抗クラミジア抗体の有無には関連が認められた。

NII-Electronic Library Service